



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co., LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2015年3月期 第2四半期決算 説明資料

2014年11月28日

<目次>

- **事業分野**
- **第2四半期決算概要**
- **通期業績見通し**
- **注力分野の状況**
(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)
- **ロボット分野への取組み**

事業分野

5つの事業分野（BF）

リアルタイム技術が得意とする5つの分野

宇宙先端システムBF

宇宙天文分野とロボットなど
先端分野のソフトウェアを開発

モバイルネットワークBF

移動体通信事業者向けの技術
サービスとモバイル端末から利用
するサーバ系のソフトウェアを開発

需要構造の変化に応じて
柔軟に変動

ソリューション

ワイヤレスBF

スマートフォンやタブレット
などモバイル端末に搭載
されるソフトウェアを開発

社会基盤システムBF

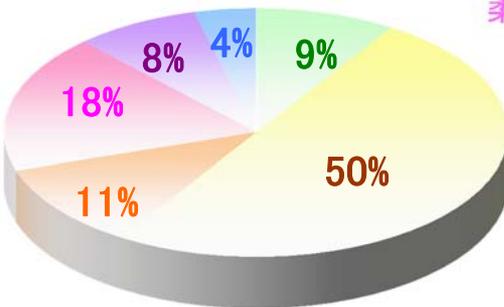
交通、防衛、医療、環境エネルギーなど
社会公共性の高い分野のシステムを開発

インターネットBF

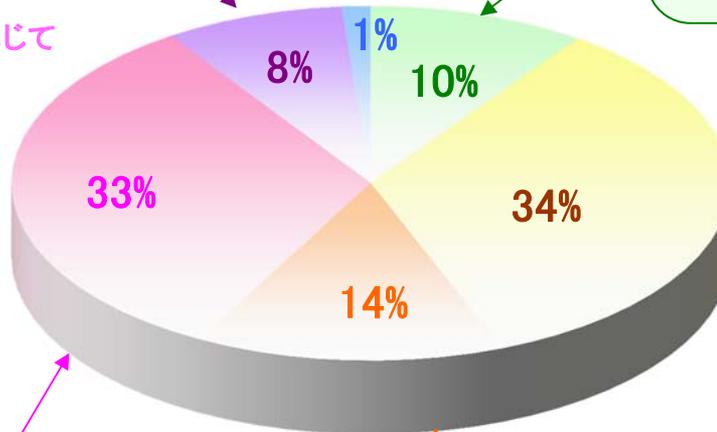
非接触型IC搭載のソフトウェアや
民間企業向けのシステムを開発

Android,iOS,WindowsPhone,
FeliCa,NFC,V-High,V-Low,iBeacon

BEMS,HEMS,M2M



2014年3月期第2四半期

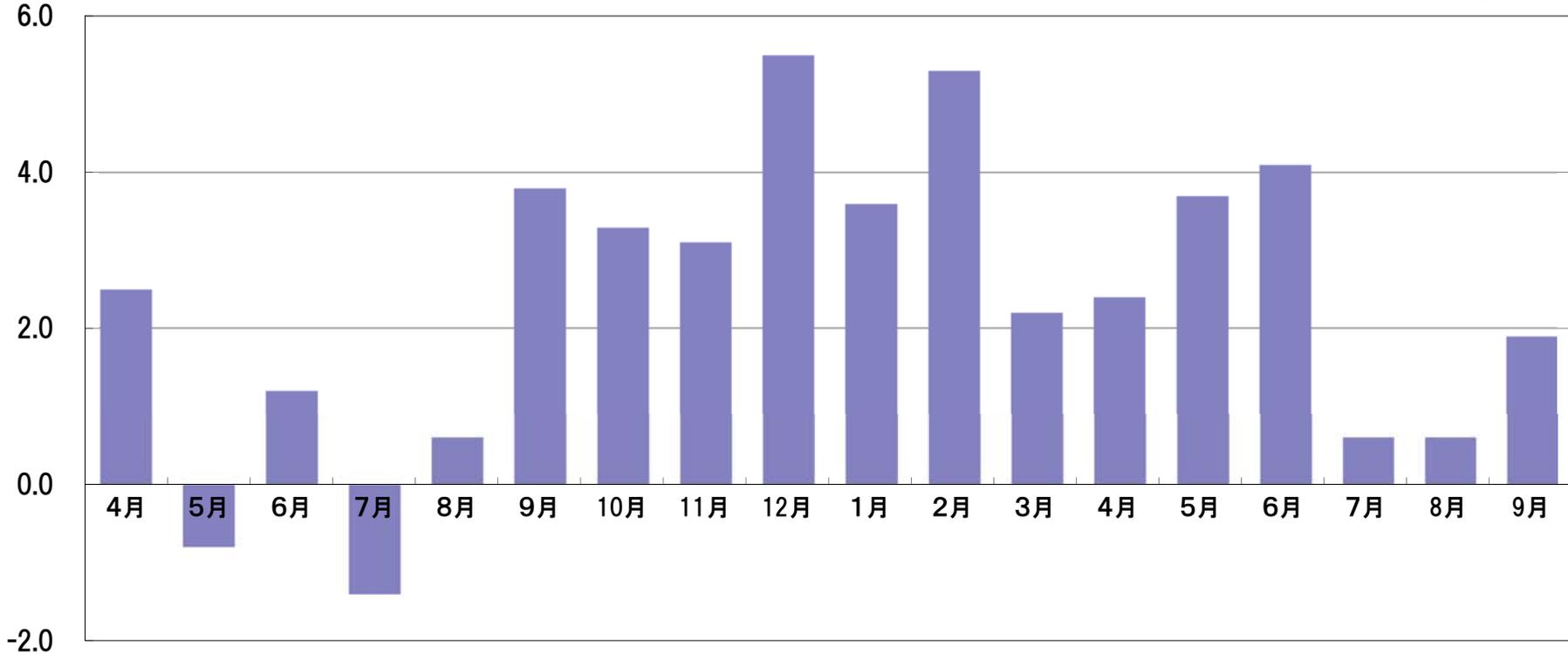


第2四半期決算概要 (2015年3月期)

2015年3月期第2四半期の事業環境

単位：%

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



月別売上高は、2013年8月から2014年9月までの14ヶ月連続で増加しており、IT需要は回復傾向

2015年3月期第2四半期総括

売上高、利益ともに計画を下回り、前年同期比で減収減益

売上高	: <u>1,879</u> 百万円	前期比	9.5%減	
営業利益	: <u>175</u> 百万円	前期比	36.2%減	利益率 9.4%
経常利益	: <u>202</u> 百万円	前期比	30.5%減	利益率10.8%
四半期純利益	: <u>129</u> 百万円	前期比	27.1%減	

受注高、受注残高は過去最高

受注高	: <u>2,084</u> 百万円	前期比	1.7%増
受注残高	: <u>1,341</u> 百万円	前期比	26.0%増

需要構造の変化に迅速に対応し、継続的な成長を目指す

- オープンプラットフォームの需要が減少し、ワイヤレスの売上高が想定以上に減少
- 医療、防衛分野など社会基盤システムにシフトし、受注は好調
- 社会基盤システムは長期案件が多く、売上への貢献は下期以降に

第2四半期損益計算書

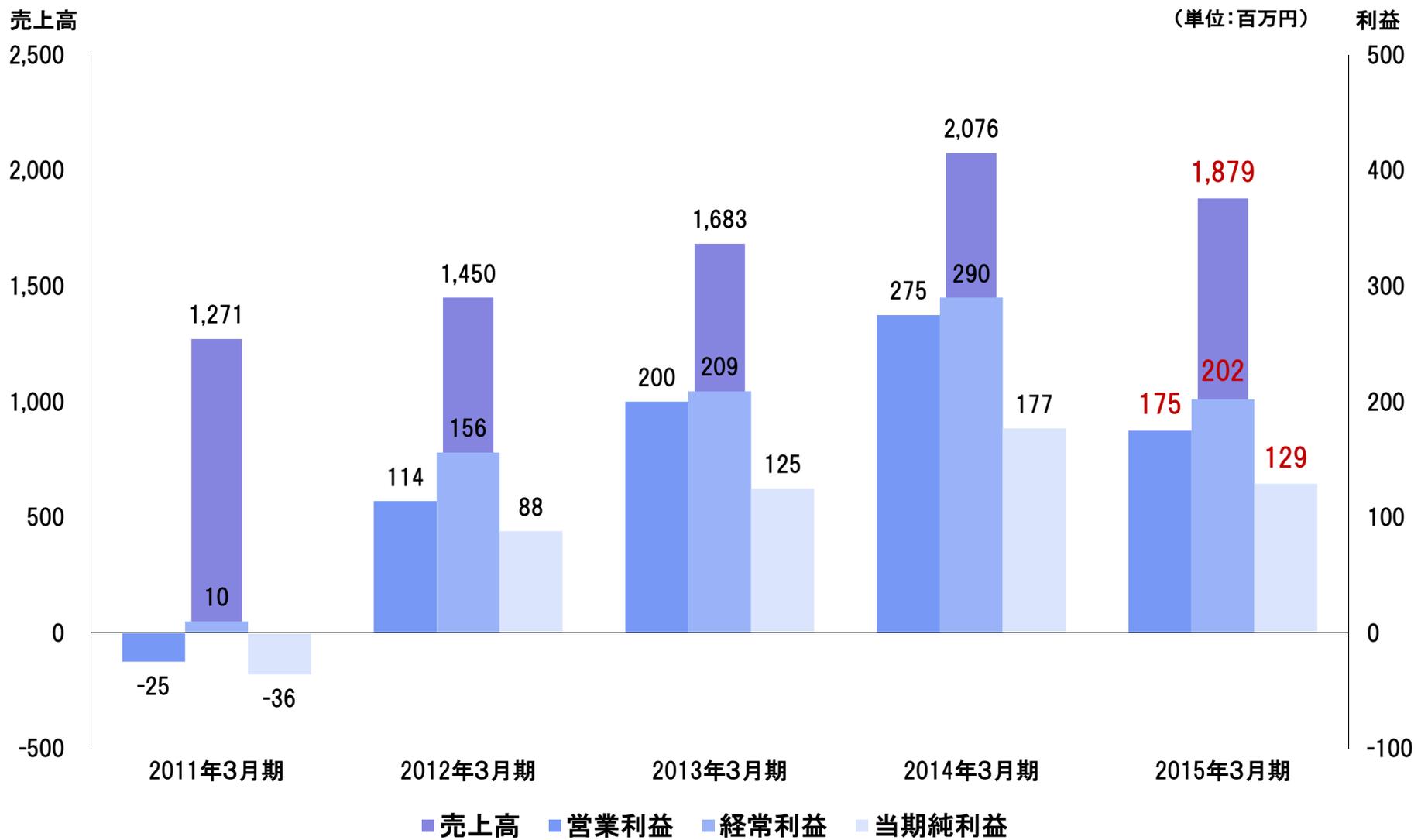
	2014年3月期 (百万円)	2015年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,076	1,879	90.5%	2,080	90.4%
売上原価	1,530	1,420	92.8%	1,500	94.7%
売上総利益	546	458	83.9%	580	79.1%
販売管理費	271	283	104.4%	300	94.3%
営業利益 (営業利益率)	275 (13.3%)	175 (9.4%)	63.8%	280 (13.5%)	62.8%
経常利益 (経常利益率)	290 (14.0%)	202 (10.8%)	69.5%	300 (14.4%)	67.4%
当期純利益	177	129	72.9%	190	68.0%

売上原価 外注費が大幅減(365百万円、前年同期比11%減、売上高外注比率19.4%、前年同期19.8%)

販売管理費 新入社員の増加や研修の充実などにより増加

営業外損益 研究開発の補助金収入は17百万円(前年同期比96%増)、環境エネルギー、介護ロボット継続

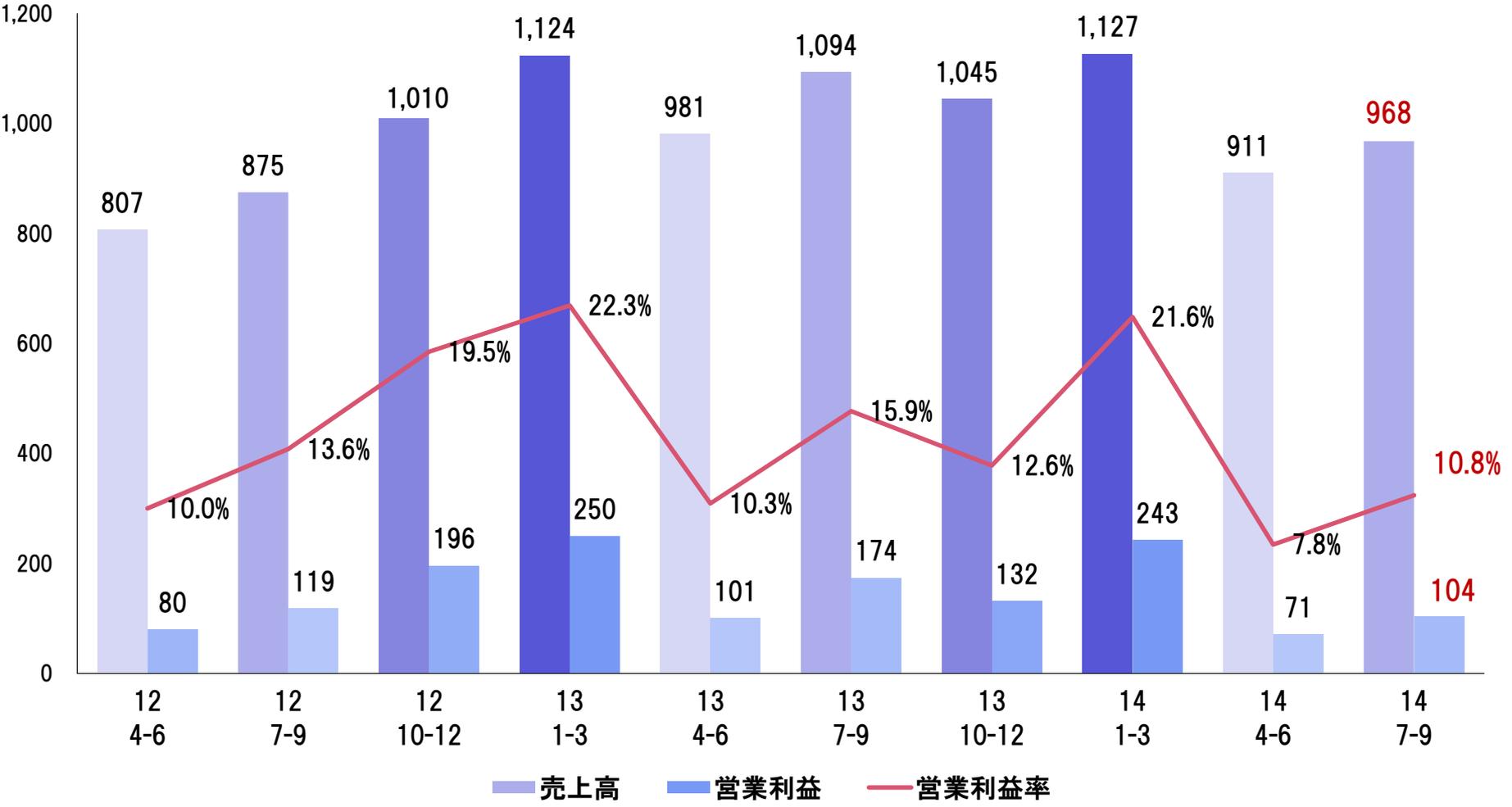
第2四半期決算業績推移



四半期業績推移(PL)

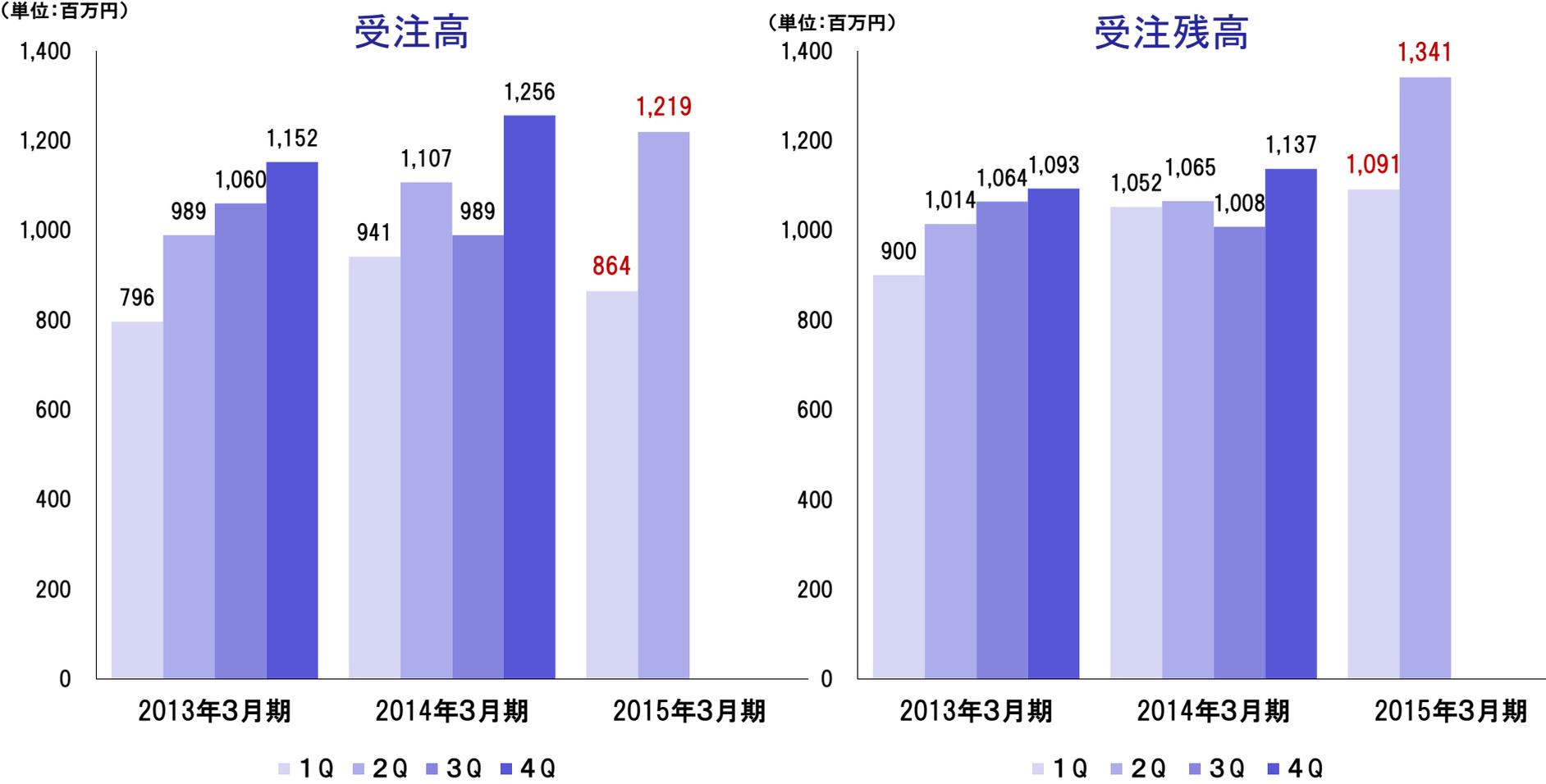
12四半期連続増収から、今上期に減収減益に転じた

(単位：百万円)



四半期業績推移(受注状況)

第2四半期から受注が回復、受注残高は過去最高に



第2四半期BF別の状況

ワイヤレス主体から、ワイヤレス・社会基盤システム2つの柱へ

ビジネスフィールド	2014年3月期		2015年3月期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	178	8.6	183	9.8	103.0
ワイヤレス	1,043	50.2	641	34.2	61.5
インターネット	232	11.2	262	13.9	112.6
社会基盤システム	364	17.6	615	32.7	168.9
宇宙先端システム	162	7.8	152	8.1	94.0
ソリューション	96	4.6	24	1.3	25.2
合計	2,076	100.0	1,879	100.0	90.5

ワイヤレスは、移動体通信事業者・携帯メーカ等からの受注が減少

社会基盤システムは、医療分野、防衛分野、その他官公庁向けの開発が大幅に増加

第2四半期末のBF別受注状況

社会基盤システムの受注が大幅に増加

ビジネスフィールド	2014年3月期		2015年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	147	79	76	52.1	32	41.3
ワイヤレス	880	377	766	87.1	310	82.1
インターネット	251	84	241	96.0	93	109.8
社会基盤システム	534	407	825	154.5	751	184.4
宇宙先端システム	166	100	145	87.7	125	124.5
ソリューション	68	15	27	40.2	29	187.6
合計	2,048	1,065	2,084	101.7	1,341	126.0

ワイヤレスの受注高は大幅に減少したが、回復傾向にある

社会基盤システムの受注高は大幅に増加し、医療などの長期案件が下期以降の業績を支える

第2四半期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2014年3月末日	2014年9月末日	増減
流動資産	3,660	3,858	198
固定資産	1,350	1,154	▲196
流動負債	606	591	▲15
固定負債	102	116	14
純資産	4,302	4,304	2
総資産	5,011	5,013	2
自己資本比率	85.9%	85.9%	0.0%
流動比率	604.0%	651.9%	47.9%
固定比率	31.4%	26.8%	▲4.6%

流動資産・固定資産 主に長期預金の流動資産への振替えによる変動

流動負債・固定負債 特別な変動なし

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	137	224	87
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲24	▲6	18
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲122	▲130	▲7
現金及び同等物の増減額	▲8	89	97
現金及び同等物期末残高	2,093	2,222	128

営業キャッシュ・フロー 売掛金の回収額増などによる収入増

投資キャッシュ・フロー 有形固定資産の取得額の減少などによる支出減

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加による支出増

通期業績見通し (2015年3月期)

2015年3月期業績見通し

通期業績見通しは据え置き

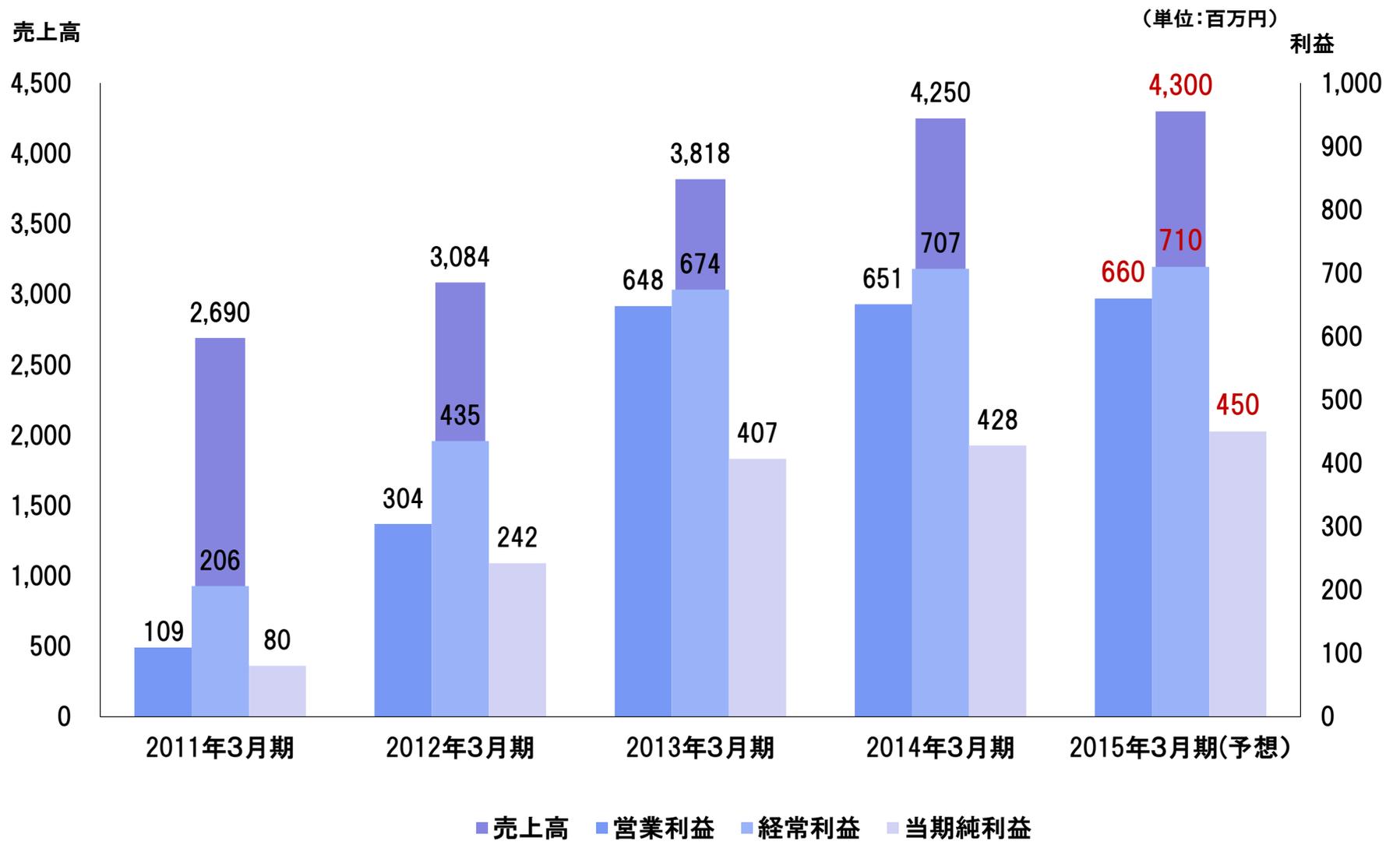
(単位:百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	4,250	4,300	101.2
売上原価	3,064	3,060	99.9
売上総利益	1,185	1,240	104.6
販売管理費	533	580	108.8
営業利益 (営業利益率)	651 (15.3%)	660 (15.3%)	101.3
経常利益 (経常利益率)	707 (16.7%)	710 (16.5%)	100.3
当期純利益	428	450	105.1

通期業績予想は据え置き、達成を目指す

- オープンプラットフォーム関連は、商談が回復傾向にある
- 社会公共分野については、引き続き需要が期待できる

通期業績の推移



2015年3月期BF別業績見通し

オープンプラットフォームは減少、社会基盤システムで大幅増の見通し

ビジネスフィールド	期初の見通し	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連する商談が減少	↓	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連する商談が減少	↓
ワイヤレス	iOSやWindowsPhoneなどの新しいプラットフォームやマルチメディア放送など、新たな技術やサービス系の商談を期待	→	受注が改善傾向にあるが、上期の減収が想定以上であったことから、減少	↓
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアを中心として、前期と同様な商談状況	→	上期に民間企業向けの開発が増加したため、通期でも増加	↑
社会基盤システム	防衛や医療分野の商談が増加	↑	医療分野などの受注が好調であることから、大幅増加	↑
宇宙先端システム	国の研究機関からの開発やロボットの商談が増加	↑	宇宙関連の復調、ロボットの商談の増加が予想されることから、増加	↑
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品の販売が前期同様	→	Android版地上デジタル放送製品の販売が減少していることから、減少	↓

注力分野の状況

オープンプラットフォーム

- モバイルネットワークBF／ワイヤレスBF／インターネットBF

環境エネルギー

- 社会基盤システムBF

ロボット

- 宇宙先端システムBF

注力3分野の状況

オープンプラットフォーム(2015年3月期第2四半期 売上高約799百万円)

- ・Androidに加え、iOS向けサービスが増加、WindowsPhone関連も継続的に受注
- ・マルチメディア放送関連は、V-Highに加え、V-Low関連にマーケットを拡大
- ・スマートフォンのみならずNFC搭載機器(決済端末など)のマーケットに参入
- ・ウェアラブルコンピュータ(NFC連携)ならびに屋内位置測位技術(iBeacon)の研究開発を推進

環境エネルギー (2015年3月期第2四半期 売上高約31百万円 研究補助金3百万円)

- ・太陽光発電エネルギーマネジメントシステムの開発が増加
- ・センサーベース技術の強みを活かしてM2Mという視点で範囲を広げてビジネスを推進
- ・豊田市低炭素社会システムの実証プロジェクトに引き続き参画

ロボット (2015年3月期第2四半期 売上高約39百万円 研究補助金14百万円)

- ・車両自動走行ソフトウェアの受託開発
- ・データセンター巡回センシングロボット開発の受託開発
- ・国の研究機関や大学からの研究案件の受託開発
- ・経済産業省「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」に引き続き参画

ロボット分野への取組み

ロボットの研究開発に注力

ユビキタス社会の究極の端末はロボット

2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位

NEDOからの受託研究
2012年に「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」成果公開



国際標準仕様RTC(Robot Technology Component)準拠のRTミドルウェアをコアテクノロジーとしてビジネス化を推進

機能安全対応RTミドルウェア RTMSafetyについて IEC61508の認証を取得し 2012年5月販売開始



宇宙ロボットミドルウェアの研究開発(JAXA)

危険作業用ロボット遠隔操作ソフトウェアの開発

車両隊列走行、自動走行ソフトウェアの開発

データセンター巡回センシングロボットの開発

ロボットにシステム工学を!



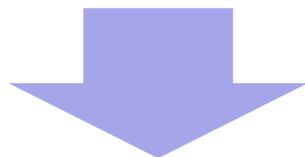
RTミドルウェアに注力
(モジュール化・共通化)

機能安全に注力

安全性の高いロボットを短期間、低コストで開発

サービスロボットの普及に向けて

- 人と共存するサービスロボットを開発して普及を目指す
サービス分野は、ロボテク家電、住宅、自動車、介護・福祉、清掃・警備・荷物搬送、パーソナルモビリティ、医療・手術支援、ホビーなど
- 普及には「安価であること」「安全であること」が求められる



- 安価にロボットを作るためには、国際標準を決めて、その仕様をオープンにし、標準化・共通化・モジュール化を推進することにより、**コスト削減・開発期間の短縮**をはかる
→ RTミドルウェア
- 安全であることを保障するためには、第三者の安全性確認制度が必要、今年2月に、サービスロボットの安全規格ISO13482が正式発行され普及を促進
→ 機能安全対応RTミドルウェア (RTMSafety)

RTミドルウェアとは

- 現状は、各研究所、企業がロボットに必要な全てを開発している
→全て自前で作るのは効率が悪く、本当にいいものができるか？



- 目、耳、手足の部分など、結果的に同じようなものを作るなら、標準化、共通化、モジュール化してしまっただほうが効率的である
- しかし、共通化は国際標準であることが必要、OMGにて国際標準仕様RTC(Robot Technology Component) 制定に協力し採用された（2008年4月）
- 普及させるためには、使ってもらう必要がある、よってオープン化
→これが、RTミドルウェアで、モジュールをつなぐ潤滑油の役割



- これが普及すれば、共通化できる部分は、他の研究所、企業が開発したものを利用し、独自に開発しなければいけない部分に集中できる、そうすることによって、コスト削減と開発期間短縮できる

機能安全対応RTミドルウェアとは

- 機能安全への要求は利用者側から（利用者側の不安を解消させる）



2つの潮流

- 今年2月に、サービスロボットの安全規格ISO13482が正式発行、第三者の安全性確認制度で、安全性への意識の高まり
- ロボット介護機器開発・導入促進事業では、ユーザ側に立った安全基準の策定と評価手法の確立を目指している（セックが参加している実証事業）



- 機能安全は「製品の差別化要因」として、また企業にとっては「損害賠償のリスクを低減」するために必須
- しかし、機能安全の認証を取得するには、開発プロセスが確立していること、安全性の分析ができること、さらに費用、取得期間が必要で、ハードルが高く、普及には時間がかかる

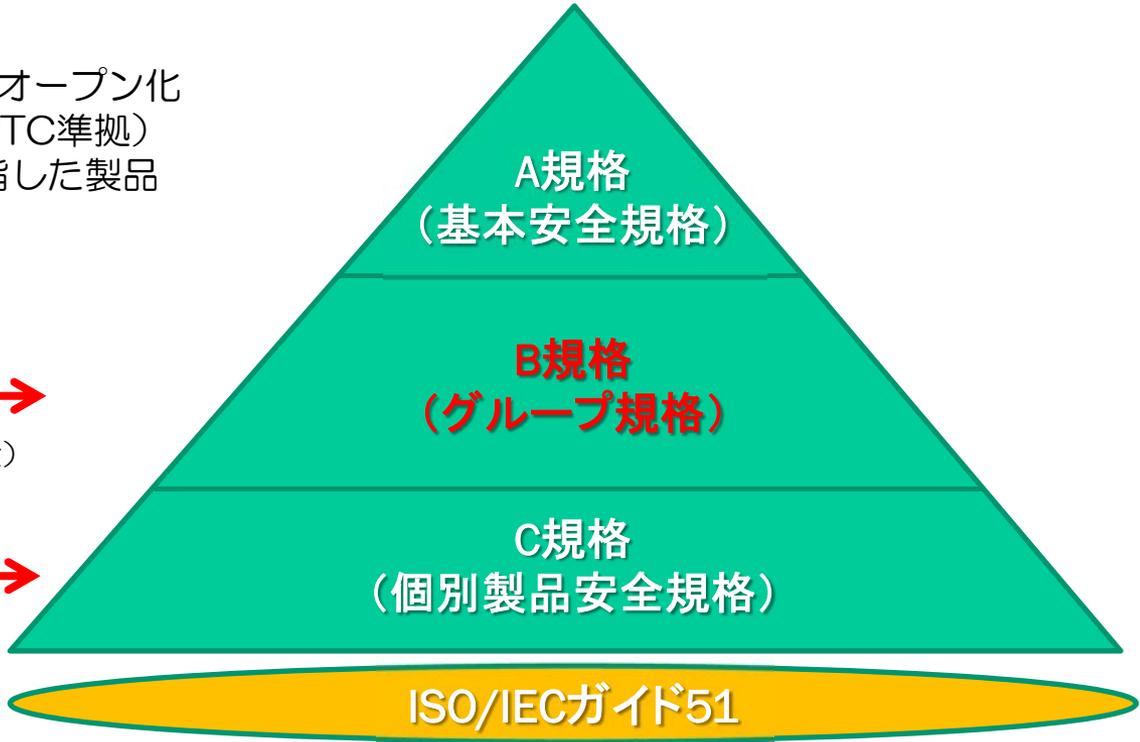
機能安全認証規格

- セックが機能安全の認証取得を決めたのは、2011年3月
- 当時は、サービスロボットの安全規格であるISO13482の制定前であり、上位規格のIEC 61508認証を取得 → RTMSafety



RTMSafetyは、オープン化
(国際標準仕様RTC準拠)
と機能安全を目指した製品

機械安全の国際規格 (ISO/IECの階層構造)



IEC61508 →

(電気・電子・プログラマブル電子関連の機能安全)

ISO13482 (サービスロボット)
(2014年2月制定) →

ISO26262 (自動車)

上期のビジネス状況

- 自動車関連の受託開発
 - 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアの開発
- ロボット研究開発案件の受託開発
 - 国の研究機関（JAXA, NICTなど）や大学などからの研究案件のソフトウェアの開発
 - ロボットメーカーの研究開発案件のソフトウェア開発
- ロボット受託開発
 - データセンター巡回センシングロボットの開発
 - コミュニケーションロボットの開発
- 国や地方自治体の実証事業 **補助金収入対象**
 - 経済産業省「ロボット介護機器開発・導入促進事業」への参加
 - 相模原ロボット産業特区での高齢者向け在宅見守りの共同開発

ビジネストレンドと方向性

■ 前年同期に比較し、商談は確実に増加している

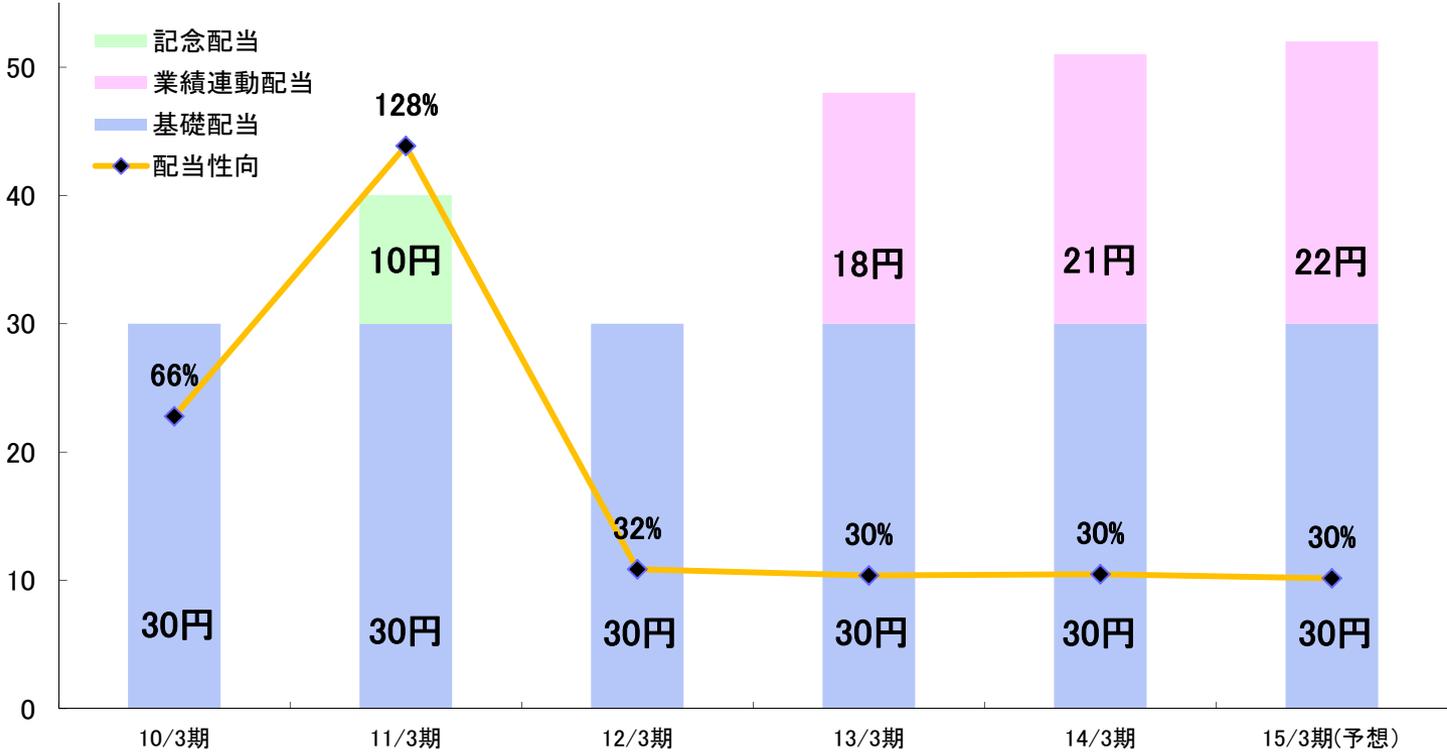
- 全体的に増加しているが、まだ研究開発レベルが多く、現場のニーズにあったサービスロボットの開発はこれから
- その中でも、ニーズが明確な車両自動走行関連は増加
- 機能安全への認識は高まっており、各社、検討はしているが、ハードルが高く、投資するのに時間がかかっている

■ 当面、ビジネスは全方位で！

- 半導体メーカー、ロボットメーカー、ベンチャー、大手SIなどとのアライアンスの推進
- コミュニケーションロボットの可能性の追求
- 機能安全コンサルテーション及び機能安全ソフトウェアの適用拡大
- 国や地方自治体の実証事業を継続し、成果を実ビジネスに繋げる

配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して每期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。
- 2015年3月期は、配当性向30%で算出した金額52円の予想とする。



本日はありがとうございました

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。